



こうじょうせん

甲状腺の働きと病気



☆甲状腺とは

甲状腺は、首の前(喉仏のすぐ下)にあり、重さが16~20g、大きさが縦4.5cm、横4cmの臓器です。正面から見ると蝶の形に似ています。

☆甲状腺の働き

甲状腺の濾胞細胞と呼ばれる場所で、サイロキシン(T4)とヨードサイロニン(T3)と呼ばれる2種類の甲状腺ホルモンを作っています。このホルモンは、体に必要不可欠なホルモンの1種で、大きく分けると3つの働きがあると考えられています。

- ① 細胞の新陳代謝を盛んにする働き
- ② 交感神経を刺激する働き
- ③ 成長や発達を促進する働き

☆甲状腺の病気

1. 甲状腺ホルモンが多すぎる病気 (甲状腺機能亢進症)

症状

甲状腺が甲状腺ホルモンを過剰に産出して、血液中に分泌している状態で、甲状腺中毒症が現れます。

『動悸』『息切れ』『汗の増加』『体重減少』『手の震え』『全身の倦怠感』『暑さに耐えられない』等の症状が出てきます。



代表的な疾患

① バセドウ病

自己免疫疾患とされています。甲状腺刺激ホルモン(TSH)が甲状腺にくっつくところに対して抗体ができ、その抗体が甲状腺を刺激し続けるために、甲状腺ホルモンがたくさん出る疾患です。

② フランマー病(過機能結節)

甲状腺の働きすぎによって起こり、甲状腺にできたしこりが甲状腺ホルモンを過剰に分泌させる疾患です。

③ 無痛性甲状腺炎

甲状腺が何かの原因で破壊されて、甲状腺内に蓄えられた甲状腺ホルモンが血液中に漏れて甲状腺中毒症を起こす疾患です。

2. 甲状腺ホルモンが足りない病気（甲状腺機能低下症）

症状

甲状腺機能が低下してくると全身の代謝が低下するため、体の全ての機能が低下します。

『むくみ』『寒がり』『便秘』『皮膚のかさつき』『集中力の低下』『脱毛』等の症状が出てきます。しかし機能低下が軽度の場合は、どの症状も特徴的でないため、診断が確定するまで長期間見逃されることもあります。



代表的な疾患

① 原発性甲状腺機能低下症

甲状腺そのものが原因であるもので、甲状腺が破壊される病気や甲状腺ホルモンの原料であるヨードの欠乏によるものです。一般的によく見られるのが、このタイプの甲状腺機能低下症です。

② 中枢性の甲状腺機能低下症

脳下垂体から分泌される甲状腺を刺激するホルモン(TSH)が不足したため、甲状腺が刺激されなくなっている状態です。TSHが減少したり、視床下部から分泌されるホルモン(TRH)が減少したりすることによっても生じますが、いずれもまれなケースです。

③ 甲状腺ホルモン不応症

甲状腺ホルモンは分泌されているのに、その指令を組織が受け付けられないために低下する状態です。甲状腺ホルモンの受容体(受信機能)の異常が原因です。

④ 橋本病

バセドウ病と同じく自己免疫疾患ですが、甲状腺細胞を攻撃する抗体が産生されるため、血中の甲状腺ホルモン濃度が低下し、それを補おうとして甲状腺が腫大する病気です。

☆甲状腺の検査

検査	内容
FT4・FT3(血液検査)	血中の甲状腺ホルモンであり、新陳代謝の働きの状態を調べます
TSHレセプター抗体(血液検査)	下垂体から分泌されるホルモンであり、FT3とFT4の生産を調整する働きが正常かどうかを調べます
甲状腺超音波検査	超音波を使用し、甲状腺の大きさ、形状等を確認する事ができます

その他に、頸部レントゲン撮影、ヨード摂取率検査、シンチグラフィー、CTスキャン等の検査があります。

甲状腺が大きく腫大したり、硬くなったり(全体にもしくは部分的に)すると、手で触れるようになります。

治療を必要としない場合もあります(単純性甲状腺腫等)が、頸部に腫れを感じたり、甲状腺機能障害の症状がある場合は、医療機関で検査を受けることをお勧めします。

その他、ご不明な点がございましたらご遠慮なくスタッフにお尋ね下さいませ。

医療法人 士正会 栄エンゼルクリニック